



Well Parent Japan (WPJ) の普及と 実践に関する研究

Gail Tripp & 島袋 静香

後藤 裕子、仲西 恵美、山下 裕史郎、David Daley

発達神経生物学ユニット

取り組んでいる課題

注意欠如・多動性障害（ADHD）は一般的な神経発達障害であり、罹患した子供、その家族、そして広いコミュニティに重大で持続的な悪影響を及ぼします。ADHD は、育児ストレスの増加、効果的な育児実践の減少、親子関係の崩壊、および重大な経済的負担と関連しています。国際的には、ADHD の低年齢児に対しては行動ペアレントトレーニングが最初の治療法として推奨されており、年長の子供たちには薬物療法と組み合わせて使用されます。現在、日本には、ADHD 患者を持つ家族の複雑なニーズに焦点を当てた、エビデンスに基づく専門のペアレントトレーニングプログラムが不足しています。これには、ペアレントトレーニングを提供するセラピストに対するトレーニングと監督の機会が限られているという問題も含まれています。

私たちの解決策

日本における ADHD の専門的なペアレントトレーニングの必要性に応えるために、私たちは Well Parent Japan (WPJ) を開発しました。これは、ADHD を管理する家族（子どもと保護者）、セラピスト、医療機関のニーズに対応するため、ステークホルダー（保護者とセラピスト）の参加を得て日本で作成・評価されたエビデンスに基づく一連のトレーニングプログラムです。WPJ は、(1)親のウェルビーイングをサポートし、発達に配慮した子育てスキルを教えるためのグループ運営プログラムであるペアレントプログラム、(2)ペアレントプログラムを提供するためのトレーニングと管理を提供するセラピストプログラム、(3)経験豊富な WPJ セラピストが他のセラピストをトレーニングするためのトレーナープログラムから構成されています。ADHD の子どもを担任する教師を支援する教師プログラムも開発中です。POC は、WPJ 参加への障壁を取り除き、日本の医療、福祉、教育制度における WPJ の利用を促進する WPJ 実施計画の確立を支援しています。

キーワード：注意欠如・多動性障害（ADHD）、ペアレントトレーニング、Well Parent Japan (WPJ)、普及



図 1.アテンドを実演する島袋医師



図 2.WPJ トレーニング教材に収録されるシーンを撮影するチーム

その他のリソース

- [OIST ニュース](#)
- [出版リスト](#)
- [ユニットウェブサイト](#)

SDGs への貢献



詳細はこちら：

rdcluster@oist.jp